

シグマ研究委員会核データ専門部会及び炉定数専門部会
グルーブリーダ会合議事録

日 時 昭和61年 1月14日（火） 13:30 ~ 17:30
場 所 日本原子力研究所本部第1会議室
出席者 村田、飯島、川合（N A I G）、中沢（東大原施）、松延（住友
原工）、北沢（東工大）、長谷川、五十嵐、浅見、中川（原研）

配布資料

1. J E N D L - 3 作成について
2. J E N D L - 3 データ評価者及び連絡者一覧表
3. 遮蔽炉定数 S W G 活動報告
4. F P 核データ W G 活動報告
5. ガス生成核データ W G 1985年会合のsummary

議 事

1. 61年度予算について

核データセンターの61年度予算について、五十嵐室長から説明があった。また、資料1により、61年度予算の骨子が紹介された。「J E N D L の実質的価値が認められてきて、データの管理者が必要になってきた。この種の作業は、シグマ委員会の作業から切り離し、核データセンターの管理下におきたい。のために、61年度の予算を J E N D L - 3 作成の外注費として使いたい。」との主旨であった。

以上の説明に対して、以下のような議論があった。

- シグマ委員会は他の委員会と比べて特殊であったが、それが良かった。
今後それが阻害される恐れはないか?
→従来は委員会が作業の場であったが、今後は活動方針や作業結果の検討の場としたい。
- J E N D L の公開性はどうなるのか?
→目下検討中であるが、不便にならないようにする。
- 成果の発表は自由にできるのか?
→研究成果の発表は自由であるが、契約に関する点があれば相談して欲しい。

- シグマ委員会の作業と、核データセンターの作業との区別はどうするのか?
→委託以外の作業は委員会作業と考える。
- 委託で取り挙げた核種と、そうでない核種が混在していると公開に関しての扱い上混乱しないか?
→そう言う点があるので J E N D L - 3 の非公開は避けたいと考えている。

なお、専門部会全体会合でも同様の説明を行い、全員の了解を得ることとし、グループリーダー会合としては主旨に賛成した。

2. 各WGの活動報告

ガンマ線生成核データWG（北沢）、ガス生成核データWG（飯島）、重核データサブWG（中川）、中重核データサブWG（松延）、FP核データWG（川合）、遮蔽炉定数SWG（川合）の活動報告がそれぞれのリーダからあった。なを、重核や中重核の非弾性散乱断面積の計算に使用する予定のCASECISやDWUCK4は使用経験が少ないのでタスクフォースを作ってコードを使いこむ必要があることが指摘された。

3. その他

- 1) 核データ専門部会の全体会合は、2月13日（木）13時30分から行う。
- 2) 1月20日と21日にBNLのPearlstein氏が原研に来る。